

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 特 許 公 報(B2)

(11) 特許番号
特許第3628101号
(P3628101)

(45) 発行日 平成17年3月9日(2005.3.9)

(24) 登録日 平成16年12月17日(2004.12.17)

(51) Int.Cl.⁷
E04D 13/072

F I
E O 4 D 13/072 5 O 1 Z

請求項の数 1 (全 5 頁)

(21) 出願番号 (22) 出願日 (65) 公開番号 (43) 公開日 審査請求日	特願平8-90342 平成8年3月19日(1996.3.19) 特開平9-256573 平成9年9月30日(1997.9.30) 平成14年12月10日(2002.12.10)	(73) 特許権者 000003296 電気化学工業株式会社 東京都千代田区有楽町1丁目4番1号 (72) 発明者 酒井 敏男 神奈川県鎌倉市台2丁目13番1号 東洋 化学株式会社内 (72) 発明者 前田 敏秀 神奈川県鎌倉市台2丁目13番1号 東洋 化学株式会社内 審査官 中田 誠 (56) 参考文献 特開平05-239894(JP,A) (58) 調査した分野(Int.Cl. ⁷ , DB名) E04D 13/072 501
---	--	--

(54) 【発明の名称】 軒樋吊り具

(57) 【特許請求の範囲】

【請求項1】

板状の固定部材（1）と、該固定部材（1）から延出された支持部材（2）と、該支持部材（2）の延出方向における先端側に軒樋（N）の屋外側耳縁（N1）と互いに係合するように形成された先端側係合部（7）と該支持部材（2）の延出方向における後端側に前記軒樋（N）の屋内側耳縁（N2）と互いに係合するように形成された後端側係合部（8）を有する軒樋吊り部材（6）で主要部が形成される軒樋吊り具において、上記支持部材（2）の上面の少なくとも上記固定部材（1）からの延出部分を該延出方向にいくに従って下方に傾斜した傾斜面（3）とし、該傾斜面（3）を階段形状に形成し、各段の該傾斜面（3）に側縁から中央に向かって下方に窪ませた溝を、支持部材の延出方向に沿って形成したことを特徴とする合成樹脂製軒樋吊り具。

10

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】

本発明は軒樋を吊り下げるようにして取り付け施工する軒樋吊り具に係り、特に、該軒樋吊り具に降った雨水を確実に軒樋内に流下させる軒樋吊り具に関する。

【0002】

【従来の技術】

従来、軒樋吊り具に降った雨水を該軒樋吊り具上面から落下させる手段として、建屋への固定用の固定部材から延出された支持部材の上面を屋外にいくに従って下方に傾斜させる

20

と共にその幅方向端縁に向かって下方に傾斜させ、この幅方向への傾斜により雨水を落下させる手段が開示されている（例えば、特開平7-166668号公報参照）。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】

しかしながら、支持部材の上面をその幅方向端縁に向かって下に傾斜させると、該支持部材の下に軒樋があれば雨水は軒樋内に入るが、軒樋がない部分（軒樋・建屋壁面間）では、建屋側に落下してしまい軒先を濡らしてしまうという課題がある。

【0004】

また、上記支持部材の上面が傾斜されていても、軒樋吊り具の上に降った雨水が建屋壁面に向かって風が吹く場合には、雨水は押し返されて軒樋・建屋壁面間から落下してしまい軒先を濡らしてしまうという課題がある。

10

【0005】

したがって、本発明の目的は、軒樋吊り具の上に降った雨水を軒樋・建屋壁面間に落下させない軒樋吊り具を提供することにある。

【0006】

本発明者らは、上記に鑑み鋭意検討を行った結果、板状の固定部材と、該固定部材から延出された支持部材と、該支持部材の延出方向における先端側に軒樋の屋外側耳縁と互いに係合するように形成された先端側係合部と該支持部材の延出方向における後端側に前記軒樋の屋内側耳縁と互いに係合するように形成された後端側係合部を有する軒樋吊り部材で主要部が形成される軒樋吊り具において、上記支持部材の上面の少なくとも上記固定部材からの延出部分を該延出方向にいくに従って下方に傾斜した傾斜面とし、該傾斜面を階段形状に形成し、各段の該傾斜面に側縁から中央に向かって下方に窪ませた溝を、支持部材の延出方向に沿って形成し、該傾斜面に降った雨水をこの溝からつつたわせて軒樋内に落下させることにより上記課題を解決できることを見出し、本発明を完成した。

20

【0007】

本発明において、上記溝は、上記支持部材の傾斜面に該支持部材の延出方向に沿って形成されたものであり、この溝が設けられた軒樋吊り具の支持部材の上面に降った雨水を該支持部材の先端方向に排水させ取り付けられた軒樋内に落下させるものである。したがって、この溝の形状は、雨水を排水できる形状であればよく、縦断面をV字状、U字状、W字状、四角形、蟻溝状等の多角形状など適宜選択できるものであり、排水効果を考えるとV字状、U字状が好ましく、さらに好ましくはV字状がよい。

30

【0008】

また、上記傾斜面を階段形状に形成し、各段の傾斜面に側縁から中央に向かって下方に窪ませた溝を、支持部材の延出方向に沿って形成することにより建屋壁面に向かって吹く風があっても雨水を逆流させずにこの階段形状からつつたわせて軒樋内に落下させることができることを見出し、本発明を完成した。

【0009】

なお、本発明において、軒樋の耳縁を保持する軒樋吊り部材は、軒樋吊り具として軒樋を吊ることができれば製品として問題なく使用できるため、上記固定部材から延出された支持部材と別部材であっても同一部材であってもよい。また、軒樋の耳縁を保持する部材は建屋固定用の上記固定具に設けられていても良いのは勿論である。

40

【0010】

ここで、本発明かかる軒樋吊り具は、上記階段形状の溝を形成する成形性の面からは合成樹脂が好ましい。該合成樹脂としては特に限定するわけではないが、具体的には、熱可塑性樹脂（例えばポリ塩化ビニル、ポリエチレン、ポリエステル、ポリスチレン、アクリロニトリル・ブタジエン・スチレン、ポリカーボネート）や熱硬化性樹脂の単体又は複合体といった合成樹脂がある。なお、上記素材自体の剛性が弱い場合には該素材内外に剛性の強い金属や合成樹脂若しくは補強繊維（例えばガラス繊維、アラミド繊維、金属繊維など）を埋設して剛性を高めればよい。また、上記素材の表面平滑性を高める等のため、ゴムや柔軟性を有するに有する合成樹脂を積層しても良いのは勿論である。

50

【0011】

【発明の実施の形態】

本発明にかかる軒樋吊り具は、板状の固定部材と、該固定部材から延出された支持部材と、該支持部材の延出方向における先端側に軒樋の屋外側耳縁と互いに係合するように形成された先端側係合部と該支持部材の延出方向における後端側に前記軒樋の屋内側耳縁と互いに係合するように形成された後端側係合部を有する軒樋吊り部材で主要部が形成される軒樋吊り具において、上記支持部材の上面の少なくとも上記固定部材からの延出部分を該延出方向にいくに従って下方に傾斜した傾斜面とし、該傾斜面を階段形状に形成し、各段の該傾斜面に側縁から中央に向かって下方に窪ませた溝を、支持部材の延出方向に沿って形成し、該傾斜面に降った雨水をこの溝からつたわせて軒樋内に落下させ、これにより軒 10
樋・建屋壁面間から雨水を建屋側に落下させて軒先を濡らすという課題が生じない。

【0012】

また、上記傾斜面を階段形状に形成し、各段の傾斜面に側縁から中央に向かって下方に窪ませた溝を、支持部材の延出方向に沿って形成して雨水を逆流させずにこの階段形状から
つたわせて軒樋内に落下させることができ、これにより建屋壁面に向かって吹く風があっても軒樋・建屋壁面間から雨水を建屋側に落下させて軒先を濡らすという課題が生じない。

【0013】

【実施例】

本発明にかかる第一実施例を図1及び図2に開示する。図1は本発明の第一実施例にかかる軒樋吊り具を模式的に示した斜視図であり、図2は同実施例を建屋に施工した際の説明図である。 20

【0014】

この実施例にかかる軒樋吊り具の主要部は、板状の固定部材1と、該固定部材1から延出された支持部材2である。該支持部材2には該固定部材1からの延出部分を該延出方向にいくに従って下方に傾斜した傾斜面3が形成され、該傾斜面3には該支持部材2の延出方向に沿った溝4が断面V字状に形成されている。

【0015】

また、該支持部材2は、該支持部材2の延出方向における先端側に軒樋Nの屋外側耳縁N1と互いに係合するように形成された先端側係合部7と該支持部材2の延出方向における 30
後端側に前記軒樋Nの屋内側耳縁N2と互いに係合するように形成された後端側係合部8を有する軒樋吊り部材6と、一体化されたものである。

【0016】

なお、図中、符号9は支持部材1から後端側に延出された押圧片、Kは建屋の瓦、Wは鼻隠し板であり、説明上、上記固定部材1を該鼻隠し板Wに固定するための部材は省略した。

【0017】

本実施例にあっては、上記支持部材1の傾斜面3に該支持部材1の延出方向に沿った溝4を設け、該傾斜面3に降った雨水をこの溝4からつたわせて軒樋N内に落下させ、これにより軒樋N・建屋壁面W間から雨水を建屋側に落下させて軒先を濡らすということがない 40

【0018】

次ぎに本発明にかかる第二実施例を図3に基づき詳細に説明する。図3は本発明の第二実施例にかかる軒樋吊り具の要部である傾斜面3を模式的に示した説明図である。

【0019】

本実施例にあっては、傾斜面3にある上記溝4を階段形状5に形成したものである。

【0020】

本実施例にあっては、建屋壁面に向かって吹く風があっても階段形状5によって雨水の逆流を阻止し、上記傾斜面3に降った雨水を該傾斜面3に沿って軒樋N内に落下させ、これにより雨水を軒樋N・建屋壁面W間から建屋側に落下させて軒先を濡らすということがな 50

い。

【0021】

【発明の効果】

本発明は、板状の固定部材と、該固定部材から延出された支持部材と、該支持部材の延出方向における先端側に軒樋の屋外側耳縁と互いに係合するように形成された先端側係合部と該支持部材の延出方向における後端側に前記軒樋の屋内側耳縁と互いに係合するように形成された後端側係合部を有する軒樋吊り部材で主要部が形成される軒樋吊り具において、上記支持部材の上面の少なくとも上記固定部材からの延出部分を該延出方向にいくに従って下方に傾斜した傾斜面とし、該傾斜面に該支持部材の延出方向に沿った溝を設け、上記傾斜面に降った雨水を軒樋内に落下させ、これにより軒先を濡らすということがないという効果を有する。

10

【0022】

また、他の発明にあっては、上記傾斜面を階段形状にし、これにより建屋壁面に向かって吹く風があっても軒樋・建屋壁面間から雨水を建屋側に落下させて軒先を濡らすという課題が生じない。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明の第一実施例にかかる軒樋吊り具を模式的に示した斜視図である。

【図2】図1の実施例を建屋に施工した際の説明図である。

【図3】本発明の第二実施例にかかる軒樋吊り具の要部である傾斜面を模式的に示した説明図である。

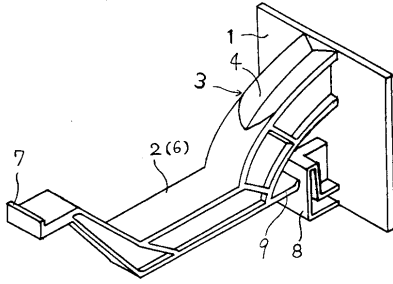
20

【符号の説明】

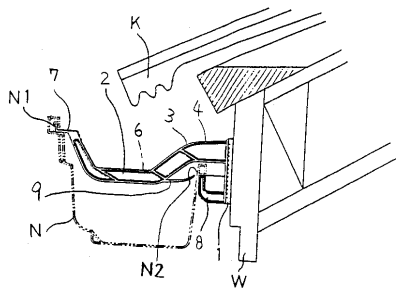
- 1 固定部材
- 2 支持部材
- 3 傾斜面
- 4 溝
- 5 階段形状
- 6 軒樋吊り部材
- 7 先端側係合部
- 8 後端側係合部
- N 軒樋
- N1 屋外側軒耳
- N2 屋内側軒耳

30

【図 1】



【図 2】



【図 3】

